

県政記者クラブ各位

第36回齋藤茂吉短歌文学賞の決定について

第36回齋藤茂吉短歌文学賞について、下記のとおり決定しましたのでお知らせします。

記

1 受賞者及び作品等

(1) 受賞者 ^{ほんだ りょう} 本多 稜 氏

(2) 作品名 「^{じこく}時剋」(歌集) 本阿弥書店(発行) 令和6年9月発行

(3) 受賞者略歴

歌人。1967年(昭和42年)静岡県生まれ 東京都在住 57歳。

歌誌「短歌人」編集委員、現代歌人協会会員。市民農園運営。

【主な著作等】

歌集：平成15年『蒼の重力』、平成20年『游子』、平成24年『こどもたんか』、平成25年『惑』、令和元年『六調』、令和5年『本多稜歌集(現代短歌文庫168)』、令和6年『時剋』

受賞歴：平成10年第9回歌壇賞、平成16年第48回現代歌人協会賞、平成20年第13回寺山修司短歌賞

(4) 選考理由

全国の歌人等へのアンケートでは今回歌集歌書二十六作品が推薦され、それを踏まえた選考委員による最終選考には四冊の歌集が残った。四作品はそれぞれ異なる特徴を持った成果だったが、選考会では改めて四歌集を比較検討の結果、全員一致で本多稜歌集『時剋』を受賞歌集とすることに決定した。

本多稜氏は第九回「歌壇賞」を受賞して以来、登山などアクティブな世界を詠って注目を集めてきた。今回の『時剋』は腫瘍が見つかったからの一年間の闘病作品集だが、従来の療養短歌とは異なって、正面から困難と向き合い、克服しようとする生命力に富んだ世界に特色がある。歌集名『時剋』の剋はうちかつの意、困難に打ち克つ強い意志の表れであり、齋藤茂吉の多力な世界の賞にふさわしいと高く評価された。この挫けない意志は、その歌は、さまざまな困難が広がる今日の私たちへの力強いエールにもなっている。

齋藤茂吉短歌文学賞にまた豊かな成果が加わったことを心から喜びたい。

(選考委員長 三枝 昂之)

2 贈呈式

令和7年5月18日(日)に、上山市体育文化センターで開催される「第51回齋藤茂吉記念全国の集い」の席上で行う予定。



【問合せ先】

齋藤茂吉短歌文学賞運営委員会事務局

(山形県観光文化スポーツ部県民文化芸術振興課)

担当 課長補佐 遠藤 吉寛 電話：023-630-2012

報道監 観光文化スポーツ部次長 丸子 尚

齋藤茂吉短歌文学賞について

1 目的

山形県の生んだ歌人齋藤茂吉が短歌文学の発展振興に寄与した功績を記念し、短歌の分野において優れた業績をあげた者を顕彰する全国レベルの賞として、平成元年度に創設。歌壇の振興に寄与し、併せて本県の文化発信地としてのイメージアップを図る。

2 主催

齋藤茂吉短歌文学賞運営委員会（委員長：山形県知事）

3 選考（第36回）

（1）齋藤茂吉短歌文学賞選考委員

委員長	三枝 昂之	「りとむ」発行人
委員	小池 光	「短歌人」編集委員
委員	小島 ゆかり	「コスモス」選者
委員	永田 和宏	「塔」選者

（2）対象作品

令和6年1月1日から令和6年12月31日までに発行された歌集・歌論・歌人研究等。

（3）選考経過

①歌人等からの推薦（令和7年1月）

全国の有名歌人等205名に推薦を依頼し、26作品を選出。

②予備選考（令和7年1月）

推薦された作品について選考委員に予備選考を依頼し、4作品を選出。

③本選考（令和7年2月）

東京都内で選考委員会を開催し、選出された4作品から受賞者・作品を決定。

4 賞の贈呈（令和7年5月18日）

正賞（賞状）及び副賞（賞金）100万円を贈呈。

齋藤茂吉短歌文学賞既受賞者及び作品一覧

区 分	受賞者名	受賞作品名	分 野
第1回（平成元年）	岡井 隆	親和力	歌集
第2回（平成2年）	本林 勝夫	齋藤茂吉の研究 -その生と表現-	歌人研究
第3回（平成3年）	塚本 邦雄	黄金律	歌集
第4回（平成4年）	前 登志夫	鳥獸蟲魚	歌集
第5回（平成5年）	齋藤 史	秋天瑠璃	歌集
第6回（平成6年）	近藤 芳美	希求	歌集
第7回（平成7年）	小暮 政次	暫紅新集	歌集
第8回（平成8年）	馬場 あき子	飛種	歌集
第9回（平成9年）	吉田 漱	『白き山』全注釈	歌集研究
第10回（平成10年）	佐佐木 幸綱	吞牛	歌集
第11回（平成11年）	伊藤 博	萬葉集釋注	歌集研究
第12回（平成12年）	森岡 貞香	夏至	歌集
第13回（平成13年）	竹山 広	竹山広[全歌集]	歌集
第14回（平成14年）	藤岡 武雄	書簡にみる齋藤茂吉	歌人研究
第15回（平成15年）	清水 房雄	獨孤意尚吟	歌集
第16回（平成16年）	小池 光	滴滴集	歌集
第17回（平成17年）	三枝 昂之	昭和短歌の精神史	歌論
第18回（平成18年）	花山 多佳子	木香薔薇	歌集
第19回（平成19年）	永田 和宏	後の日々	歌集
第20回（平成20年）	河野 裕子	母系	歌集
第21回（平成21年）	伊藤 一彦	月の夜声	歌集
第22回（平成22年）	品田 悦一	齋藤茂吉 —あかあかと一本の道とほりたり—	歌人研究
第23回（平成23年）	篠 弘	残すべき歌論 —二十世紀の短歌論—	歌論
第24回（平成24年）	秋葉 四郎	茂吉幻の歌集『萬軍』	歌集研究
第25回（平成25年）	栗木 京子	水仙の章	歌集
第26回（平成26年）	小島 ゆかり	泥と青葉	歌集
第27回（平成27年）	柏崎 驍二	北窓集	歌集
第28回（平成28年）	橋本 喜典	行きて帰る	歌集
第29回（平成29年）	大辻 隆弘	景德鎮	歌集
第30回（平成30年）	春日 真木子	何の扉か	歌集
第31回（令和元年）	吉川 宏志	石蓮花	歌集
第32回（令和2年）	大島 史洋	どんぐり	歌集
第33回（令和3年）	岡野 弘彦	岡野弘彦全歌集	歌集
第34回（令和4年）	佐藤 通雅	岸辺	歌集
第35回（令和5年）	玉井 清弘	山水	歌集
第36回（令和6年）	本多 稜	時剋	歌集

【本多 稜 氏】

